

学校名：横浜市立新羽中学校

担当：第2学年・社会科

氏名：新堀 孝太郎

1. 今回の研修における目的やねらい

開発教育について学ぶ。～日本が行う支援現場の視察と教育現場の視察～

- ①タンザニア・アフリカについてたくさんのことを見て聞いて学び、その後の授業に活かす。
- ②日本が行う支援やODA(電力と稲作)の現場をみて今後の授業にいかす。
- ③タンザニアの人と話や行動を共にする中で共通点や異なる点を見つける。
- ④日本とタンザニアの学校現場の違い、特徴を生徒に伝える。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

①については本当に一瞬一瞬で学びがあった。食事や車で道を通っただけでもたくさんの発見があった。また、同行してくれたタンザニア人のスタッフからも生活や自然についての詳しい話を聞くことができた。②については日本のODA支援も様々な企業が入って行われており、そこで働く人にも思いがあるなど新たな発見があった。③は先に述べた動向スタッフから学んだことが多かった。年も近く、普段話すスポーツや音楽の話など共通点も多くあったが、学習にかける気持ちの強さなど違いも感じることができた。また④の、学校現場ではモノの不足や教員の接し方など日本との違いや類似点など様々なことを考えることができた。

3. タンザニアから学んだこと

①日本では一括りにアフリカと教えてしまいがちだが、アフリカにも様々な国がありそれぞれに特色があることが分かった。また、現代の日本よりも人の距離感が近くこれから日本が見習わなくてはならないこともたくさんあるとわかった。

②これまでも支援や開発について考えることが多くあったが、「相手国の自立を目指す」という目標があるということに改めて考えさせられた。

③日本の人・企業が強く貢献しているということを知った。日本による支援が電気や水道、教育など様々な場所で生かされているということを知った。

④幸せについて考えることが多かった。わかっていたことではあるが、自分も含め多くの人が日本の価値基準で物事を見ておりタンザニアの人(途上国の人)にとっての幸せが何なのかをもう一度しっかり考えて支援についても考えたいと思った。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

日本とタンザニアの架け橋になる活動を。

まだまだ先進国やアジアの国々に比べ、アフリカへの関心は低い。教科や道徳の授業を通じて、タンザニアやアフリカに少しでも関心をもてるような活動を行っていきたいと考えている。そして将来的に生徒が途上国やアフリカに関心をもってくれたらと考えている。また、同僚にも伝えていきたいと考えている。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

現地で働く日本人と多く会えたことはとても良かった。ODAにしてもそこで働く日本人の願いや気持ちがこもっていることが分かったのが良かった。また、ナショナルスタッフや日本語を学んでいる現地の人がついてくれるのは様々なことを知ることが助けとなった。また、多くの神奈川、山梨の先生達と同じ気持ちをもって研修に取り組めたことが良かった。今後も仲間として開発教育に取り組みたいと思っている。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

記録係をだったが、カメラの台数が多いと子供が動揺してしまうため、学校などはカメラの台数をあらかじめ決めていってもよかったかなと感じた。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

事前研修からとても学びがある研修でした。これまで中々勉強することが少なかった開発教育やタンザニアに対する知識を身に着付けることができました。今後もメンバー、職員ともに一緒にアフリカにアクション(アサンテの会・今後も教材研修を行うなどの)を起こしていきたいと思っています。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

事前に本やテレビで知識を身に付けていくことと、現地の言葉、英語を学んでいったほうがよかったと感じた。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	日本からの移動はやはりとても長かった。道中タンザニアの歴史についての本を読んだ。また、「風に立つライオン」という映画を見た。また、ドーハの空港は想像していたよりも発展していた。
8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬研修ブリーフィング	「日本とタンザニアの架け橋になってほしい」という言葉が印象に残っている。まだまだ暗いイメージがあるアフリカを正しく伝え架け橋になっていきたいと思った。
8月10日(月)	本日のふりかえり	今後自分がやっていきたいことが明確になった一日だった。これまでの経験から開発途上国と日本の架け橋となれるような活動を教師として行っていきたいと感じた。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所研修ブリーフィング	宮城さんの電力の話が印象に残っている。タネスコの民営化の失敗など日本では考えられないことが起こっていることが分かった。また、最後にあったガス田の開発は今後大きくタンザニアが変化していくような気がした。
8月11日(火)	本日のふりかえり	関谷さんが話をしてきた陸稲と水稲の違いを日本でも教えていきたいという話が印象的だった。また、ブリーフィングの中であった「〇〇人というように一般化するのはよくない」という話が印象に残った。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	朝五時半にホテルを出発し、空港へ。パスポートの名前とeチケットの名前が異なったりしてとても驚いたし、時間はかかったが、無事にキリマンジャロ空港へ。

8月12日(水)	キリンギ中学校 赤木隊員活動視察	その後、ローカルレストランで休憩をして、中学校へ。はじめに校長先生に挨拶をして、その後校内見学。二つ年下のジョゼフ先生(インターン中、来年から教員)にいろいろ説明してもらう。 恋愛のこと、音楽、車、スポーツなど年齢が近いこともあり実にいろいろなことを話すことができた。肌の色が違うといっても考えていることは変わらないと感じた。子供たちは英語も話すことができ、コミュニケーションをたくさん取ることができた。日本人とタンザニア人の幸せの価値観を問うワークで教育を選ぶことが多いことがとても印象的で「そう教えられている」という話があったことも考えさせられた。
8月12日(水)	モシへ移動	車内ダルエスサラームとは全く違う光景がたくさん見ることができた。始めに想像していた「アフリカ」のイメージの光景であった。
8月12日(水)	隊員との懇談会	主に平川さんと話をした。柔道についてたくさん話を伺った。身体能力は高いが、細かい動きがとても苦手という話が印象的だった。また、畳を集めている話を伺い、日本で集める活動を行いたいと思った。
8月12日(水)	本日のふりかえり	広島と長崎のことをキリンギ中学校でも教えているということが日本での戦争をどう教えていくかということを考えさせた。
8月13日(木)	カラंगा小学校 植松隊員活動視察	授業に参加させていただいたのがとてもよかった。実際に計算問題を解いて、先生に丸付けをしてもらったり、反対に生徒の丸付けを行ったりと良い経験が出来た。反応や遊んでいるときの表情など日本の子どもたちととても似ていると感じた。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	畳不足が衝撃的でした。土のような硬い地面で柔道を行っていて、スポーツでの支援をもっと学校現場で、できたらと考えさせられた。
8月13日(木)	本日のふりかえり	モノの重要性を実感させられた1日だった。「モノが一番重要ではない」と考えていたが、やはりモノがないとできないこともたくさんあるのだと感じた。何か支援が出来ないかと考えている。
8月14日(木)	タンライスプロジェクト 視察	講義で日本の2.5倍の面積があることは農業的にも大きな可能性があるのだと感じた。また、女性の仕事の負担が多く除草など体に負担がかかる

		ことをさせていることが分かった。日本がジェンダーの支援を行っていることも学ぶことができた。
8月14日(木)	専門家との懇親会	井上さんと多く話すことができた。学校にできることは少しでも途上国を伝え、きっかけをつくることだと感じた。また、象の支援を大泉さんの奥さまから依頼されぜひ日本の学校で行いたいと思った。
8月14日(木)	本日のふりかえり	上流と下流で水をめぐる争いについて考えさせられた。米を多くつくるということはタンザニアの人にとって死活問題なのだと感じた。また、学校教育で計算などの数学教育がしっかりしていないから、数値管理が難しい、タンザニアの人の生活で日本人の感覚で働くことは難しいということが印象に残った。
8月15日(木)	タンライスプロジェクト 農村視察	とても良い家族で農村に入ったことが楽しかった。何度も「コータロー」と呼んでくれたことがうれしかった。また、女性が一日中家事を行っている現場を見たことで学校へ行けない女子児童が多いことを改めて実感した。
8月15日(木)	市内視察	マーケットを少し見ることができた。米やタンザニアのユニフォームなどたくさんのもがあった。また、ヒトも物も多く生活力、エネルギーを強く感じた。
8月15日(木)	本日のふりかえり	家族の人に名前を読んでもらったこと。水の現場を見ることができたこと。自分が片づけをしていると「男性がやることではない」と言われたことが印象的だった。女性への教育はもう一度日本に帰って勉強しようと思った。
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	飛行機がとてもゆれて驚いた。始めて飛行機が怖いと思ったがとても良い経験でした。モシが素晴らしすぎて人が多い、ダルエスに戻るのが少し憂鬱だった。
8月16日(日)	専門家との懇親会	高いビルからダルエスの港が一望できるタイ料理レストランでの懇親会。これまで行った他のアフリカ諸国での話や治安の話などこれまでの経験をたくさん話していただいた。
8月16日(日)	本日のふりかえり	幸せについて懇親会や飛行機の中で考えさせられた。自分の生徒に自分の幸せについて、また途上国の人の幸せについて今後考えさせていきたいと思った。日本の生活と途上国の人の生活が関係ある以上何らかの支援を行っていきたいと思う。

8月17日(月)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察	見るものすべてが初めてのものでとても面白かった。変電所のシステムや日本の機械が多く入っていること、途中でダルの内市が停電したことなど印象に残ることが多くあった。昨日の懇親会でも感じたが、利益よりも使命感や希望で仕事をしている人が多いと感じた。また、「途上国で働くには、ヒトを信じるのが大切」「対等な立場で接することが大切」「図面が読めないことが仕事の妨げになっている」「電気を使えるようにして夜も勉強できる環境、治安がいい環境をつくりたい」など心に残った言葉がたくさんあった。また、新羽出身の専門家の方がいて生徒に話したいと思った。
8月17日(月)	市内視察・教材購入	ティンガティンガ村が印象に残っている。カラフルな色の絵が至る所にあり、明るい気持ちになることができた。 ケンタッキーにも行ったがまるで違う国にいるような感覚になった。特に一般のタンザニアのトイレより高さが低かったことが印象的だった。
8月17日(月)	本日の振り返り	これまでなんとなく知っていた ODA について具体的な場面を見ることができたのがよかった。働く人一人ひとりの気持ちや情熱がはいった ODA ということをもっと生徒に伝えていきたい。また、ただアフリカと一括りで教えるのではなくもっとたくさんのお話を伝えていきたい。
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	最後の学校訪問。協力隊の方のエネルギーを強く感じた。特別支援の現場を見ることができてまだまだモノもスキルも日本のほうが十分準備されていると感じた。今回のタンザニアで「モノも重要」ということを実感した。モノがないとできない教育も多くあると感じさせられた。
8月18日(火)	教材購入	スーパーマーケットは日本と同じような感じがした。日本のショッピングモールと同じ匂いがして本当にタンザニアにいることを忘れてしまうような瞬間だった。また、市内の道路渋滞がすさまじくドイツや中国が作った鉄道を活用できないかと感じた。
8月18日(火)	本日のふりかえり	特別支援教育の現場を見ることができたのがとてもよかった。教育という側面と「隠す」という側面2つのことを考えさせられた。また、日本よりも自分たちで考えて遊ぶことが上手な気がした。

8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会	新聞社などたくさんの方がいる中で行われた。「日本の教育とタンザニアの教育の違い」という質問は日本のほうが考えさせる努力はしているが生活の中で考えるタンザニアのほうが生活力はある気がした。
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	『タンザニアには「日本に行って勉強したい」とか「日本のおかげで…」など日本素晴らしいことを見てくれている人が多いが、日本が忘れてしまったこともたくさん知っている』という話が印象的だった。私たちが気付かない日本の良いところをタンザニアの人にたくさん教えてもらった気がする。また、支援は「自主性を育てる」という言葉がタンザニアに来からずずっと悩んでいたことを解消させた気がする。また、10人の教員だけが来たということはこれから日本で伝える役目をしていかななくてはならないと責任感をもった。
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	空港の人の多さに圧倒された。また、ドーハの40度という暑さに驚いた。日本に帰りたような帰りたくないような複雑な気持ちだった。また、必ず新しい土地にいて今回の研修のような学びの場をつくっていきたいと思った。